

# LINE or manaba?

## - 授業外活動における情報共有ツールの選択を考える -

古賀 暁彦\*1

Email: KOGA\_Akihiko@hj.sanno.ac.jp

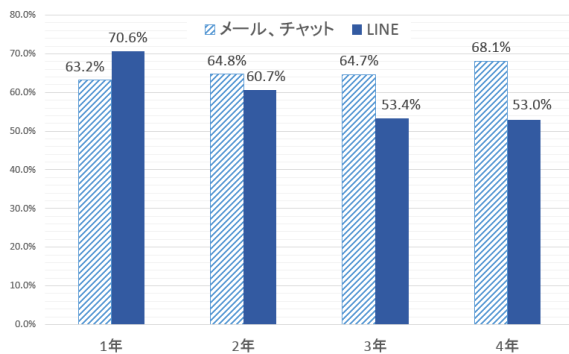
\*1: 産業能率大学 情報マネジメント学部 現代マネジメント学科

◎Key Words 地域連携, アクティブラーニング, ポートフォリオ

### 1. 問題の所在

PBL (プロジェクトベースドラーニング) を導入する大学が増えている。そしてその実施形態は「企画プレゼン型 PBL」から「実践型 PBL」に移行しつつある。「企画プレゼン型 PBL」とは企業等の実務家から提示される実際の現場での課題に対し、グループで解決策や企画案を検討し、実務家の前でその企画案プレゼンするタイプの PBL を指す。一方の「実践型 PBL」とは、考えた企画を学内外で実践し、活動結果を振り返るタイプの PBL を指す。例えば見館(2015)では、学内の合同企業説明会への企業誘致から当日の運営までのすべてを現役の3年生が企画し、実施するプロジェクトを紹介している。

こうした活動を推進する上で、学生間の情報共有のためのツールが不可欠となる。そのツールとして近年急速に普及が進んでいるのが LINE だ。LINE の特徴は、学生が自由にグループを作り、情報を発信・共有できる点にある。図1は産業能率大学の学生に対し、携帯電話・スマートフォンの利用目的を調査した結果だが、2014年の新入生においては、LINE の利用がメールやチャットの利用を上回る結果となっている(複数回答可、回答数3,063人)。



グラフは北川 (2015) のデータを元に筆者作成  
図1 携帯電話・スマートフォンの利用目的

学生生活において欠かすことのできなくなった LINE は、「実践型 PBL」を推進する上でも重要な情報共有ツールとなっている。教員が特段の指示をしなくとも学生達は自発的に LINE のグループを作り、情報発信や情報共有を進めている。

しかし、LINEによる情報発信・共有にも課題がある。まず Word や PowerPoint といった Office 系のソフトのファイルの共有ツールとして不向きな点があげられる。

スマートフォンでの利用を中心に考えられたツールのため、トークやノートで添付できるファイルは写真や動画に限定されているからである。

また、メッセージソフトのインターフェイスのため、長文情報の入力や閲覧に不向きな点や、複数人で利用した際、発言と返信の関係が分かりづらい点があげられる。

またフロー情報の交換を前提として作られたソフトなので、ストック情報の管理が難しいことが大きな問題点となっている。フロー情報とは、リアルタイムに必要なメンバー間の連絡やスケジュール調整などの情報が該当する。一方、ストック情報とは必要な時に参照できるマニュアルや過去の活動実績や記録などを指す。LINE では時系列で最新の情報から提示されるため、以前やりとりした重要なストック情報を検索したり、ストック情報をカテゴリ別に分類保存したりすることが難しい。

### 2. manaba 活用による課題解決

#### 2.1 教育支援システム manaba とは

以上のような課題を解決するため、2015年度より全学的に導入された教育支援システム manaba course (以下 manaba と略) を実践型 PBL 授業に活用した。manaba は朝日ネット社が開発・運用しているクラウドサービスの教育支援システムである。

学生のグループワークを支援する「プロジェクト」と呼ばれる機能や、ポートフォリオ等の学習成果の蓄積機能、学生間でレポートが相互評価できる機能など、実践型 PBL を運営する上で役立つような機能が揃っており、導入前の期待は大きいものがあった。

#### 2.2 本システムを適用した授業の概要

2015年度より、筆者の担当する「マネジメント実践ゼミⅡ」にて本システムの活用を開始した。ゼミでは大学近くにある観光地大山の活性化に取り組んでいる。

2013年秋より、地元で有名な大山豆腐の作成過程でできる「おから」を使ったドーナッツを製造・販売する店「kobara+3 (コバラミタス)」を開業し、地元の観光業者の方のアドバイスを受けながらゼミ生が営業を継続している(図2参照)。ゼミの3年生(20人)は実際の会社組織と同様、社長を筆頭に、財務管理課、商品・資材管理課、店舗管理課、おもてなし課、販売促進課、メディアコミュニケーション課の6つの部門に分かれて役割を担っている。また、実際の店

舗運営は上記の部門とは関係なく、毎回4～5人のゼミ生がシフトを組み、土日祝日限定で活動している。



図2 kobara+3 (コバラミタス) の営業風景

店舗運営の中で出た課題は「営業日誌」にまとめ、それを翌週のゼミで発表し、改善案を考え次回の営業に生かしている。松尾(2011)は「具体的経験を→内省する→教訓を引き出す→新しい状況に適応する」という経験学習サイクルを回すことで人は学習すると述べている。しかしPBLでの経験は単発のイベントで終わることが多く、引き出した教訓を次の体験に活かすことが難しい。本取り組みは実践の機会を継続し、経験学習の質を高めている。

なお、活動に際しては、教員は極力口を出さず、学生自らが課題を発見し解決するよう心掛けている。

### 2.3 LINE を活用した情報共有

2014年度までのLINEを活用したゼミ内での情報共有について説明する。教員が参加するLINEのグループとしては3年生のみのグループと2年生と3年生が参加しているグループが存在する。それ以外に教員が参加しないゼミ生だけのグループ、部門ごとのグループ、グループまでは設定しないが、営業日ごと一緒のシフトのメンバーが連絡しあうLINE等が存在する。学生は情報共有・伝達の必要な範囲を自ら判断し、状況に応じて仲間を選択し、複数のグループを使い分けているのである。

また、アナログ情報をデジタルメディアの中で共有する方法を彼らなりに工夫している。手書きで記入したドーナツ材料の在庫一覧や営業日誌等を、一旦写真に撮影した後にLINE上で共有することで効率的に伝達している。

教員からの一斉通知においてもLINEは最も有効なツールとなっている。メールでの通達では学生が読んだかどうか不明であったが、LINEでは既読数が確認できると、ほぼ全員のゼミ生から「了解しました」という返信が半日以内に届くため、教員業務の効率化に大きく貢献している。

### 2.4 manaba を活用した情報共有

次に2015年度から試行を開始したmanabaを用いた情報共有の取り組みについて説明する。

課題であったストック情報の管理については現状「掲示板」という機能を用いて営業日誌の管理を始

めた。以前はノートに手書きした営業日誌をスマートフォンで撮影し、それをLINEで共有していたが、手書き入力やノート受け渡しの煩雑さ、ネットワーク上での情報共有が課題となっていた。そこで今回manabaの「掲示板」機能を用い改善を図った。

フロー情報については、コースニュースという機能を利用し、教員からの一斉通知を試みた。コースニュースに伝えたい情報を入力すると、学生にはmanabaで情報を確認するようリマインドメールが配信され、教員はmanabaで閲覧した学生一覧を確認できる。何回か試したが、閲覧する学生は20人中1～2名に留まったため、現在は学生間のやりとりも含めフロー情報の共有にmanabaを使用していない。

### 3. 課題

フロー情報の配信については、LINEに軍配が上がる結果となった。一方ストック情報の蓄積(営業日誌)については、manabaを活用することで一定の成果が得られたものの、いくつかの課題が残った。

第一の課題は、閲覧できるメンバーの設定が柔軟性に欠ける点である。現在は3年生のゼミのメンバーだけで情報を共有しているが、後学期から新たに店舗を運営する2年生も情報を共有する必要が生じる。しかしコースの履修者にアクセスが制限されるため、学年を跨いだゼミメンバーの情報共有ツールとして運用できないことが課題となる。さらに大学外でPBLにかかわる関係者は一切このシステムにログインできないという課題も残っている。

第二の課題はスマートフォンへの対応である。現状manabaのスマートフォン版画面で使える機能は限定されており、掲示板やコースニュースの入力や閲覧ができない。従ってスマートフォンであっても使いづらいPC版画面での使用を余儀なくされている。またmanabaではユーザーが「営業日誌」等の独自の入力フォーム等を作ることができないので、入力項目を決め、平板なテキストデータで入力させている。

以上の経験より、経験学習サイクルを回し続けるPBLにおいて必要となる情報共有ツールとして、①コースに参加できるメンバーを教員や学生が主体的に設定できる。②学外でのアクセスを容易にするためスマートフォンでのユーザビリティを向上する。③LINEと連携したストック情報蓄積の仕組みがある。の3点が必要と考える。

### 参考文献

- (1) 見館好隆「キャリア形成を意図したPBLの質向上について」『大学のPBL これまでとこれから』発表資料 p.9 (2015)
- (2) 北川博美「学生を対象とした情報環境・利用に関するアンケート調査の実施について」『産業能率大学 情報センター年報第23号』p.19(2014)
- (3) kobara+3 facebook ページ  
<https://www.facebook.com/kobaramitasu>